

市長就任のごあいさつ 田口 知明

先月行われた仙北市長選挙において、市民の皆さまから再び市長にお選びいただき、10月30日より私の2期目の市政をスタートさせていただきます。

1期目の4年間は、市民の幸福度全国NO・1の仙北市実現を市政理念に掲げ、直面している課題の一つでも改善、解決するべく全力で市政運営をしてまいりました。

長年の懸案だった固定資産税の課税誤りの是正や、旧市立角館総合病院や中町庁舎の解体、角館上野庁舎の整備推進、保育料と高校生までの医療費の完全無償化を実現しましたが、財政改善のために上下水道の段階的値上げや、仙北市広報の発行を月1回への削減および全ページカラー印刷から2色刷りへの変更、また各種補助金や事務事業の見直しなど、市民の皆さまに痛みを伴う改革も覚悟を持って進めてまいりました。

これも市議会議員の皆さまからの問題提起やご提案、そして議案をご可決していただきなければ実現することはできませんでしたので、改めて感謝を申し上げます。

また仙北市役所全職員の皆さまの、この4年間の市政運営への協力と業務遂行のための努力に心から感謝をいたします。そして何よりも市民の皆さまからのご理解とご協力がなければ、市政運営はできませんでしたので、衷心より感謝を申し上げます。

現在も人口減少をはじめ、ここ数年の急激な出生数減少による少子化への対策や、待ったなしの角館・田沢湖両市立病院の経営改善、豪雨や火山噴火などの自然災害への備えや、老朽化した公共施設と共に増加している空き家への対応強化、より一層の産業振興の実現など、仙北市が直面している課題は山積しておりますが、2期目も1期目と



再選後、初登庁の風景

同様に、「逃げない」「隠さない」「嘘をつかない」という市長としての決意をもって課題に向き合い、改善、解決してまいる所存ですので、どうか市民の皆さま、市議会議員の皆さま、市職員の皆さまからの引き続きのご理解とご協力、ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

そして幸福度全国NO・1の仙北市という目的地へ向けて、これからも共に力を合わせて仙北丸を前に進めてまいります。

仙北市長選挙 田口 知明氏が2選

任期満了に伴う仙北市長選挙が10月12日告示、10月19日投票の日程で行われました。現職と新人の2氏が立候補し、現職の田口知明氏が2期目の当選を果たしました。

投票の状況

区分	男	女	合計
有権者数	9,327人	10,795人	20,122人
投票者数	4,533人	5,273人	9,806人
投票率	48.60%	48.85%	48.73%

仙北市長選挙結果

当 田口 知明 6,750 票
次 高久 昭二 2,598 票

第3回

角館のシダレザクラが

長生きするために

仙北市のみなさん、こんにちは。文化財課の技師で樹木医の板橋朋洋です。前回（広報10月号）は松木内川堤のソメイヨシノの管理について紹介しました。今回は国指定天然記念物「角館のシダレザクラ」について紹介します。

まず、シダレザクラという桜の種類について紹介します。シダレザクラは、エドヒガンという野生種の中で、枝の成長が早く、枝が垂れる特徴を持った品種です。花の色は白ですが、さまざまな品種改良の過程で紅色が強いベニシダレや、八重咲のものまでさまざまな品種が作られています。野生に近いこともあり、ソメイヨシノよりも病気に強く平均寿命も長いです。例えば、有名な福島県三春町の三春滝桜は、樹齢1000年を超えているとされています。一方で、「角館のシダレザクラ」の樹齢は80年〜300年程度と推定されているので、寿命を考えればまだ頑張ってくれそうです。しかし、寿命に近いくらい長生きするためには、適切な生育環境が整えられていることが前提として必要です。「角館のシダレザクラ」の場合はどうでしょうか？少し考えてみましょう。

まず、適切な生育環境について整理します。植物が健全に成長するためには、さまざまな資源が必要です。代表的なも

のは、光、水、栄養塩類などです。ごく簡単にいえば、植物が根から水と一緒に栄養分を吸い上げ、葉で光を受けて光合成をするといったプロセスが必要です。この視点で、「角館のシダレザクラ」が主に植栽されている武家屋敷通り周辺を見てみると、はっきり欠けているものがあることがわかります。今から約70年前の武家屋敷通りの写真と、今年の4月の写真を並べて載せました。モノクロなのでわかりづらいかもしれませんが、昔とくらべて今はシダレザクラ以外の高木が増えていて、シダレザクラに日陰を作っている状況になっています。植物が特に必要とする資源は種類によって変わりますが、サクラの場合は光の重要度が特に高いです。したがって、「角館のシダレザクラ」の生育環境は今のところ望ましい状況とは言えません。シダレザクラとしての寿命を全うするくらい長生きさせるには、生育環境を改善してあげる必要があります。

実はこの問題はすでに深刻なレベルまで進んでいて、近年はシダレザクラがほかの樹木の枝に押され、枝張りが狭くなったり、もはや枯れかけという個体すらいます。健全に成長できていなければ、花の量も少なくなるので、花が少なくなるのは桜にとっては致命的ですね。

もちろん、課題があるのは光だけではなく、植物が根を張り、水や栄養分を吸い上げるには、適度に軟らかく、水はけのよい栄養のある土壌であることが理想です。武家屋敷通りの土壌を見る

と、綺麗に落ち葉が掃かれて整地され、苔むしていることも多いです。庭としての見た目は美しくてよいのですが、土が比較的固く湿っている環境であることが多いです。もちろん庭としての見た目も景観上重要なので、綺麗に維持することは必要ですが、シダレザクラにとって必ずしも良い土とは言えないので、景観と土壌環境のバランスをとる必要があります。

ここまでの説明で、実は「角館のシダレザクラ」の生育環境が必ずしも良いわけではないということがわかったかと思います。文化財課では、この「角館のシダレザクラ」の樹勢を維持するために、剪定や病害虫の防除などの日常管理に取り組んできました。しかし、これまで通りのやり方では維持することが難しくなっています。これからは、個々のシダレザクラの状態をよく観察・診断し、光や土壌環境の改善により一層手を尽くします。

さて、今回は「角館のシダレザクラ」の生育環境について詳しく紹介しました。次回は、最終回としてこれまでの連載をまとめます。



仙北市文化財課 樹木医 板橋朋洋

宮城県仙台市出身。
角館の桜の保存管理業務などを担当。



現在（2025年4月）の武家屋敷通り



過去（1957年4月）の武家屋敷通り